様式３

会　　議　　録

会議名 （審議会等名）		令和８年度第８回 相模原市立小中学校等の適正規模・適正配置あり方検討委員会		
事務局 （担当課）		学務課　電話０４２－７６９－８２８２（直通）		
開催日時		令和８年９月８日（火）　１８時００分～１９時３０分		
開催場所		相模原市役所　第２別館３階　第３委員会室		
出席者	委　員	１０人（別紙のとおり）		
	その他	０人		
	事務局	１２人（教育局長、教育環境部長、学校教育部長、 学務課長、学校教育課長、教職員課長　外６人）		
公開の可否		■可　□不可　□一部不可	傍聴者数	０人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議　題		１　開会 ２　議題 （１）前回会議録の承認について （２）前回審議会の振り返りについて （３）答申のまとめについて （４）その他 ３　閉会		

議　事　の　要　旨

主な内容は次のとおり。

１　開会

川崎会長より開会のあいさつを行ったあと、定足数を確認の上、次第に従い会長が議事を進行した。

２　議題

（１）前回会議録の承認について

前回会議録について事務局から説明を行った。

意見等はなく、前回会議録について委員の承認を得た。

（２）前回審議会の振り返りについて

事務局から資料に沿って説明を行った。

なお、【確認を要する事項】については、資料に対する質疑が終了後、意見交換を行うこととした。

（倉田委員）「発言力の強い人」については、前回よりは良くなったと思うが、「発言の多い人」だと意味が変わってしまうか。

（川崎会長）発言を妨げるわけではない。

（酒井委員）強いという言葉が皆さん引っかかるため、「発言力のある方」なり「発言力のある人」の方が良い気がする。

（川崎会長）変更案としては「発言力のある方」となるか。趣旨としては、発言を妨げるものではなく、しっかりと意見交換はやっていただきつつ、他の方が発言できなくなってしまう状況が望ましくないということが伝わるように、あまりマイルドにしすぎるのも発言を妨げているようになってしまう。

（齋藤委員）「発言力のある方」だと、どんな方でも発言力というのはあるのかなと思うので、意味合いが変わってしまうが、「発言の多い方」とかで読み取ることはできないか。

（佐藤（慶）委員）偏るのが怖いという話しなのか。図１０で示した現行の進め方では意見の偏りがないような対応が必要である。だから図１１ということになるのかと思うが、マイルドすぎるか。

（川崎会長）３つ案が出たが、「発言力の強い人」「発言力のある方」「発言の多い方」というところだが、いかがか。マイルドにするか、強い方が良いかというところで

あると思うが、趣旨は変えたくない。
（佐藤（香）委員）昔ながらの意見が通り続けたというニュアンスであるのか。新しい意見を取り入れていきたいということが伝わるようにしたい。
（酒井委員）「ある一定の意見が」のような感じはいかがか。それであれば、発言力が強い人が言った意見が通っているのかなと感じる。
（川崎会長）委員会の答申になるため、あまり文学的にしなくても良いと思う。
（井上委員）どんな言い方をしても色々な考え方があり、色々な意見を持っている人がいるので、このままでも良いかと思う。
（川崎会長）ここでの趣旨は、特定の方や地位の高い方の意見が通りやすいといったような趣旨であり、決して皆さんの活発な意見を妨げるものではないということで、「発言力の強い人」から修正はしないが、本委員会の考え方は示しておきたいと思う。
（割柏委員）一番通じやすい表現となっているため良いと思う。
（川崎会長）相模原市の方針としては、市民の方としっかりと議論を行い、意見をすり合わせをしてということなので、それを妨げない表現が望ましいと思う。議事録に残す形でまとめさせていただき、表現はこのままとする。

【確認を要する事項（１）「学校規模が教育環境に与える影響」について】
（齋藤委員）４枚目のスライドの下から２つ目の丸にある「普通級」という表記だが、通常の学級や、特別支援学級は省略して支援級と呼んだりしているが、そこの説明をいただきたい。
（事務局）通常の学級に修正させていただく。
（酒井委員）６枚目のスライドで、『実現できること』の表記がされているが、点線で囲われている所で、「大規模校では課題になりやすい」と「小規模校では課題になりやすい」というのは、無くても良いのではないかと思った。ただ、趣旨もあるかと思うので、あえて入れているのかもしれないが、実現できることで未来ある意見なので、課題になりやすいというのはない方がよいと感じた。
（川崎会長）例えば、「校務分掌を適切に配分できる」というのは、大規模校でも適切に配分できるが、小規模校になると課題になりやすいということだと思う。逆に、「特別教室や体育館等を使用する授業を無理なく割り当てられる」というのは、望ましい学校規模よりも小規模な学校であれば割り当てられるが、大規模校だと余裕がなくなるので課題になりやすい。そのため、望ましい学校規模が良い、という論法になると思う。無くすとどちらの課題か分からなくなるため、あった方が良いかと思う。
（佐藤（慶）委員）６枚目のスライドにある、教育環境の小規模校では課題になりやすいの中で、「クラブ活動や部活動の選択の幅が広がる」というのは、学校単位で

の部活動の選択の幅が広がるということなのか。今は既に他校と合同チームを作っていることもあり、選択の幅は大丈夫だと思うが、他方で、指導する教員の確保という点では、そもそもボランティアベースで部活動が行われてきていて、もしかしたら適正規模になったらそういう教員を配置する方針にあるから、このような記載をしているのか。あえてここで記載する必要があるのか。

（事務局）部活動の地域移行は行っているが、この点は中学校の先生に実態を伺いたい。

（井上委員）地域移行とはなっているが、やはり部活動の基本は学校である。学校の子どもが少なくなると、教員も少なくなる。教員が少なくなると指導者も少なくなる。そうなると何種類かの種目しか残らなくなってくるという現状になっている。それで部活ができなくなるのは子どもたちにとっては可哀想だということで、日本中体連やスポーツ庁から地域移行をしていこうということで、あくまでも地域移行は機会を与えることである。中学の教員で部活をやってきた人間からすると、中学生のうちは部活は学校だろうという気持ちがあるし、この項目は残しておいた方が良いと思う。

（川崎会長）他市において、人が減り始めている所では、地域移行にするのは良いが、学校のグラウンドや音楽室を使おうとすると鍵の管理などの問題が出てきて、学校施設側も対応しなければいけないこともあり、地域移行は簡単ではなくて、今よりも色々とやらなければいけないことが増えてくる。小規模になるとそのような問題が色々な形で出てくるようである。

（井上委員）部活動という言葉を残していただきたい。学校教育課が中心になって移行や合同部活も取り組んでいただいているので、相模原市は良い方向に進んでいくと思う。

（川崎会長）学校運営の「特別教室や体育館等を使用する授業を無理なく割り当てられる」というのは、もう少し説明した方が良いと思う。今の学校現場だと、興奮した子や色々な対応をすることが起こった時に、子どもが１人でクールダウンをするようなスペースや更衣室の確保など、余裕スペースがあることによって、今必要な教育サービスを提供できるようになり、それが大規模校では難しくなるということだと思うので、その点はきちんと書いた方が良い。

（倉田委員）中野小学校では、児童１，０００人いたのが４００人を切っていしまい、今年から全学年２クラスになってしまったが、（オール２クラスに）なったが故に部屋が空き、個別指導に使えていたり、更衣室に使えていたりというのが機能的にはありがたい。反対に、前任校の上溝小学校はそういう部屋がまったくなかったので、どうしようかと。今は市内の学校は、着替える際にはカーテンを引いたりと工夫をしていると思うが、学年に１部屋が理想だが、学年で使える部屋、スペースがあるととても良いと思う。結果的に子どもが減ったから活用している状況だが、ク

ールダウンや友達とのトラブルなども含めた中で、個別に支援、指導する部屋が現実（中野小学校には）あるので、助かっている。今は個別色々な関係もあるので、必要性を帯びていると感じる。

（川崎会長）ここは書き加えをしていただきたい。今の教育サービスに即した学校運営を相模原市は望ましいと考えているという方向感が示された方が良い。

（佐藤（香）委員）加配を必要とする児童が１人いると、先生が１人付くことになり、そういった時に小規模校の課題になるのか。加配を必要とする子が１人いたら先生が１人追加できるというのであれば問題ないと思うが、保育園だと加配１人につき先生を追加することができてると思う。小中学校はどのような形なのか。

（倉田委員）学校規模にもよるが、（小学校は）友達とのコミュニケーションなどの課題を専任する児童支援専任が、中学校は生徒指導担当がいるが、それだけではなかなか収まらないのが現状である。個別というところでは教職員は多くいた方が良いと思うが、定数がある。児童支援専任、生徒指導担当が中心となって組織で動いて対応しているが、それで十分かということについては、学校運営の中で工夫して行うということになるため、人はたくさんいて欲しいと思う。

（川崎会長）今のは、「校務分掌を適切に配分できる」の所になるかと思う。校務分掌というと事務的なニュアンスにはなってくる印象にあるので、色々なお子さんに対応できる体制を作るには小規模校には課題になりやすいというニュアンスを出せた方が良いかと思う。ここの校務分掌の部分も説明を加えた方が良いかと思う。校務分掌だけだと専門家っぽくなってしまう。

（倉田委員）スライドの７枚目と８枚目は参考で答申には載らないのか。

（事務局）スライド６枚目を検討するに当たり参考としてご覧いただくものである。

（川崎会長）（スライド６枚目の）「望ましい学校規模で『実現できること』」の表は、答申の中ではどういうふうに表現される予定なのか。

（事務局）スライド６枚目の資料については、前回の皆さんからの意見を踏まえてまとめさせていただいた。答申へはこのまま一覧表として載せる選択肢もあれば、望ましい学校規模をなぜこのクラス数にしたのかというところを、今いただいている意見をピックアップして載せるという選択肢もある。資料３の８、９ページで望ましい学校規模のクラス数をご議論いただいたと思うが、論点①の『将来を見据えた「望ましい学校規模」の範囲』のところで、小学校は１８～２４学級、中学校は１５～２１学級、次のページの【望ましい学校規模に対する考え方】のところで、『一定の学校規模がないと、「教育の質」や「配置される教員数」の確保が難しくなる。』といった部分の理由付けとして、一覧表を後ろに付けた方が良いのか、もしくは、ピックアップした意見を考え方の所に入れた方が良いのか、というところを本日ご議論いただいた中で決めていただければと思っている。

（川崎会長）８ページ、９ページに一覧表を入れ込むというまとめ方になりそうだと

いうことなので、資料３と併せて見ておいた方が良い。まさに、教育の質を高めるとか、より良い環境での学びを実現させるという趣旨なので、個別指導が適切に対応できるとか、部活動の幅を確保できるという所へ繋がるということだと思う。
（倉田委員）一覧表であった方が分かりやすい気はする。９ページのどの項に一番ぴったりくるか、うまくレイアウトして入れるのが良いのではないかと思う。
（川崎会長）津久井地域に関しては別枠ということにしているので、どのように入れるかが難しいかもしれない。確かに、表の方が分かりやすいし伝わりやすいと思う。論点②と③の間に入れる感じになるか。
（倉田委員）答申に論点という形は文言として残るのか。
（川崎会長）答申にはこのまま残る。議論した際のストーリーとしては、新しい時代の学びを実現するための教育環境を整えるという意味で、まずは適正規模の論点①と②を目指すということであるが、そうは言っても実際には津久井地域ではそのようなことを言っている余裕はないということで、ここは旧市域とは異なる対応をしていくという流れであったかと思うため、論点①と②の後にこの一覧表が入るとすっきりすると思う。望ましい学校規模にすることによって、新しい時代の学びを実現できるという意味では、この一覧表はあった方が良い気がする。
（佐藤（慶）委員）津久井地域では、小規模校では課題になりやすいというのが残るということで、では津久井地域ではどういう対応をされるのか、検討されたのかということを聞かれたら、別途手厚く検討するという文言を入れるのか。現状、課題が生じると分かっていて、人が少ないからどうしようもないという事実であるが、それに対する回答はどこにも記載されていないと思う。
（川崎会長）それが論点③である。
（川崎会長）まとめさせていただくと、スライド６枚目の一覧表を載せるということで、場所は論点②と論点③の間に入れる。文言については、もう少し説明を入れないと分からない所がいくつかあったかと思う。特に学校運営の所は、新しい時代の学びといった観点で、クールダウンや個別の対応ができるようなスペースの確保や更衣室の問題が大規模校だと難しいということが伝わるようにすると良い。また、一般の方に校務分掌と言っても難しいと思うので、小規模校になると人の配置と対応が難しくなってくるということで、新しい時代の学びが確保できないという形で表現を変えるとうまく収まる気がする。

（３）答申のまとめについて
（倉田委員）２０ページの「地域実態に合わせた取組」の部分に、「統合」という言葉が使われているが、それで良いのか。再編とずっと書かれてきているかと思うので、ここは「統合」という言い回しで良いのか。
（木下委員）１９ページの２つ目の丸の「児童生徒に対する環境変化への配慮」にも

「統合」という言葉が使われている。
（事務局）「学校の再編」という言葉を確かに使うようにしているが、今回「統合」という言葉を使わないといけない箇所が数か所ある。学校の統合や通学区域の変更など、全体を含めて再編ということであり、今回、例えば学校を統合して新しく建て替えるということで話しを進めると、再編というよりは、統合という表現にしている。また、全体的に委員の皆さんの発言で統合という表現がある場合には、それを受けて統合という言葉を使わせていただいている。大きな括りで言うと、確かに再編である。基本的には再編という言葉を使うようにしているが、答申上で再編と統合の違いが分からなくなってしまうところは、統合という言葉を使わせていただいたが、改めて再編に修正することはできる。ただし、補足説明が必要になると思うため、どちらが分かりやすいか、ご議論いただければと思う。
（川崎会長）これは検討委員会の答申なので、強い言葉かもしれないが、趣旨として広い意味では再編であるが、マイルドにすると伝わりにくくなるというのがあるので、あえて刺激的にしている部分はあるかもしれない。
（倉田委員）以前の統廃合や廃校は死語になっている。
（事務局）「廃」という言葉はすべて取り除いており、統合と再編という形にしている。
（齋藤委員）１８ページのアンダーラインが引いているところで、２行目の「意見がまとまりづらく」とあるが、イメージ的には「まとまりにくい」などの方が構造的な言葉になるのかと感じる。
（川崎会長）意図的にやった訳ではないと思うし、趣旨は変わらないと思うので、「まとまりにくく」で構わないと思う。
（川崎会長）まとめをすると、前回から修正いただいた箇所についてはそのままで、１８ページは「まとまりにくく」という表現に変える。てにをはについては、最終的には事務局と会長で調整をさせていただく。
（川崎会長）それでは、今取りまとめさせていただいた内容で、本検討委員会からの答申とすることをご承認いただいてよろしいか。
（全委員）異議なし。
（川崎会長）最終的な答申については、後日、代表して教育委員会へ提出させていたく。なお、答申の修正については、最終確認を会長一任とさせていただきたいと思うがよろしいか。
（全委員）異議なし。
（川崎会長）また、今回の会議録だが、本来であれば皆様に確認、承認していただくところだが、本日が最終回ということで、こちらも会長一任とさせていただきたいと思うがよろしいか。
（全委員）異議なし。
（川崎会長）それでは、皆様のご協力によりまして、無事に教育委員会に対する最終

的な答申をまとめることができた。本検討委員会は、今回が最終回となるので、委員の皆様から順番に一言ずついただきたいと思う。

（佐藤（香）委員）最初は内容が分からなかったが、だんだん内容が分かってきて、学校の背景や自校以外のことがわかっていったり、視野が広がった。こういう委員会が開催される際には、他の課と一緒にできればより進みやすくなるのかとも思ったので、そういう機会があれば検討いただきたい。

（酒井委員）光が丘地区を経験させていただいたことで参加したが、そこで困ったことやこうして欲しかったということをこの場でもお話しさせていただいた。それが少しでも役に立ったのであれば良かったのかと思う。何が一番良いかわからない中で考えなければならないのは大変であり、光が丘のように一つの地区ではなく、市全体となるとさらに違う考え方というか、もう少し広い所をみてやっていかなければならないということで、自分自身の学びの場にもなった。

（佐藤（慶）委員）並木小学校は今年閉校する学校であり、その渦中にいる中で、当たり前の事実の事は本部役員と共有して理解をもらっている。並木小学校は１年生が１クラスで閉校するが、５年後には並木の地区から３クラス分の１年生が弥栄小学校に入る。弥栄小学校がどうなるかは弥栄小学校側に落として、話しをしている。本当に勉強になった。

（倉田委員）小学校の代表として参加したが、各委員の話しを聞いたり、相模原市は山があり湖があり都市部がありという環境の中で、どう子どもたちを育てていこうかということを皆さんと議論できて良かった。一つ一つ丁寧に、行政の皆さんを含めた中で、子どもたちというところで当たっていただけるのはありがたいし、小学校の校長の意見を聞いたり、職員の声を聞いたりというのはこういう場があるからこそできたことであり、とても勉強になった。

（井上委員）色々な分野から出てきた方の話しを聞けたことが良かった。それを基に職員との会話が増えた。こういう会議に出ているので、こういう話しが出ているなど、職員に持ち掛けると職員からも意見をもらえた。あとは会長の進行がとても良かったと感じている。

（齋藤委員）昨年の３月まで相模原市でお世話になっていて４月からは民間に勤めているが、相模原市がどれほど素晴らしかったのかを身に染みている。相模原市は一人ひとりを大切にする、文章にしても漢字の「一人」とひらがなの「ひとり」、一人ひとりを大切にするというのが伝わってくる。また、会長が審議を進める中で全委員を丁寧に扱っていただき、丁寧に審議を進めていただいたと思う。子どもたちのために良い会ができたと思う。

（割柏委員）相模原市の自治会連合会からの代表で出ているが、光が丘地区で、統合の渦中にいる地区ではあり、議題が大変難しい所ではあるが、経験した中で、色々と皆さんの話しを聞き、様々な立場で話しを聞けるのは勉強になった。答申の中に

出ているが、教育委員会のたたき台は必要だと思う。今回の答申をまとめて、今後統合の話しがこれからも出てくると思うが、その時の進め方としては行政はプロであるので、そこからたたき台をもらいながら進めていくことは良いと思う。

（木下委員）公民館の代表として出たが、元々学校の教員をやっていたので、学校の立場で考えてこれから大変だと、作るより無くす方が大変だとつくづく感じている。皆さんの考えを聞けて勉強になった。良い方向に学校が進めば良いと思う。

（日下部委員）多様な考えを持っている方が集まって、この会議が順調に進んだポイントが３つある。子どもたちにより質の高い教育を作るという価値観を共有して進められたことが１つ、もう１つは事務局が周到な準備、分かりやすい具体的な資料、判断材料を用意してくれたこと、もう１つは会長のファシリテーターの巧みさ、この３つが揃って話しが順調に進んだかと思った。幼稚園協会から参加したが、ずっと考えていたのは「子育てするなら相模原」なので、どこにでもあるようなものではなく、相模原ならではの何か尖った内容になれば良いと思っていた。出来上がった答申は特徴あるものだと思っている。津久井の幼稚園の理事長でもあるので、津久井にもっと人が集まるようになれば良いなと思うし、質の高い教育が津久井でもできればと思う。

（川崎会長）昨年の９月から丸一年かけて、ゼロからではないが積み上げて議論させていただいた。色々な自治体と付き合いがあるが、積み上げていくという大変な作業をしつつ、まとめまでたどり着くことができて御礼申し上げる。この会は活発で、実体験や現場の声とか、様々な角度から意見が出てきたのが非常に良かった。この委員会は積み上げていくスタイルで、良い経験になった。落としどころが見えてくるような資料作りは、事務局のおかげである。良い委員会であり、良い答申であったかと思う。答申で終わりではなく、これから答申に掲げたより良い教育環境を作るために事務局を初め、市民として色々な形で次の世代により良い環境ということをしっかりとやっていただきたい。

（４）その他

なし

３　閉会

相模原市立小中学校等の適正規模・適正委員会 委員出欠席名簿

	氏　　名	所　属　等	備　　考	出欠席
1	川崎　一泰	中央大学 総合政策学部	会　長	出席
2	齋藤　嘉一	帝京大学 教育学部 初等教育学科		出席
3	割柏　秀規	相模原市自治会連合会		出席
4	木下　泰雄	相模原市公民館連絡協議会		出席
5	日下部　全彦	相模原市幼稚園・認定こども園協会		出席
6	高橋　昌剛	相模原市立小中学校ＰＴＡ連絡協議会		欠席
7	久保　武史	相模原市立小中学校ＰＴＡ連絡協議会	副会長	欠席
8	佐藤　香	相模原市立小中学校ＰＴＡ連絡協議会		出席
9	酒井　美穂	公募委員		出席
10	佐藤　慶一	公募委員		出席
11	倉田　秀文	相模原市立小学校校長会		出席
12	井上　武仁	相模原市立中学校校長会		出席